

後世に歴史を伝える！

古戦場公園再整備事業

問 生涯学習課 ☎56-0627



長久手古戦場記念館



国指定史跡長久手古戦場および小牧・長久手の戦いを解説する「長久手古戦場記念館」は、2026年4月、公園東側にオープン予定です。

西側ゾーンには、本市の古代から現代までの歴史を展示解説する歴史民俗資料館と古民家を整備していきます。

東側ゾーン

長久手古戦場記念館の展示品のひとつ、公益財団法人徳川黎明会 徳川美術館蔵「長久手合戦図屏風(六曲一隻)」の復元模写が完成しました。

これは愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所に制作を委託した模写作品で、原本と同素材、同技法で描き、原本制作当時の色彩をよみがえらせたものです。



西側ゾーン

市内最古級の古民家は、2本の太い柱と梁を持つ鳥居建て形式が特徴です。鳥居建て形式で市内に現存するのは、この1棟のみです。



古民家の解体作業は3月に完了し、2025年度中に再建築工事を行います。土壁塗りなど、一部の作業が体験できる市民ワークショップも予定しています。



佐藤市長コラム Vol.5



「見える」「届く」「変わる」

古民家移築事業の経緯

2017年に策定された「古戦場公園再整備基本計画」において、江戸時代後期から末期に現在の瀬戸市品野で建築された鳥居建て形式の古民家(明治期に瀬戸から長久手へ移築)を古戦場公園内に移築し、歴史民俗体験施設とする方針が明記されました。私が2023年に市長に就任してから、それまでの経緯、市の財政状況などを勘案して古民家移築事業の中止を判断しました。しかし、2024年3月議会で「文化財保護の事業は市教育委員会の職務権限であるため、市長の中止判断は越権行為である」との指摘を受け、

私は中止判断を撤回し、市教育委員会の判断に委ねることを決めました。

市教育委員会は、市文化財保護審議会に諮問し、その答申の結果を受けて、古民家を古戦場公園内に移築して保存および活用する方針としました。私はその方針を尊重し、2025年度当初予算に再建築工事の費用を計上しました。その後、文化財保護法に基づく国登録有形文化財の登録申請を目指すことになりました。

古戦場公園西側ゾーンは、2025年度中に古民家を移築後、その周りに歴史民俗資料館を建設し、2027年度にオープンする見込みです。



長久手市長 佐藤有美